

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

青森市長

市町村名 (市町村コード)	青森市 (2201)
地域名 (地域内農業集落名)	滝内地区 (三内・丸山・岩渡・孫内・二股)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和5年12月25日、令和6年6月27日 (2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・中山間で耕作条件が悪く、安定的な用排水の確保のため、基盤整備を実施する必要がある。  
 ・山沿いの農地が多いため農地流動化が進みにくく、耕作放棄地の解消や未然防止を図る必要がある。  
 ・農村の活性化のため、土地に適した高収益作物が必要である。  
 【地域の基礎的データ】  
 中心経営体:9経営体  
 主な作物:水稲、ソバ、野菜

(2) 地域における農業の将来の在り方

・交付金を活用し地域ぐるみでの農地保全活動を継続していく。  
 ・農道や水路の補修のほか耕作条件の良好な農地を選定することにより、担い手に農地が利用集積されるよう努める。  
 ・施設野菜の生産性の向上を図り農業経営の安定化に努める。  
 ・土地に適した高収益作物を導入し、農村の活性化や担い手の確保を図っていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	161.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	161.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その中でも農業生産の中心となるエリアである農用地で担い手の意向や周辺農地の状況等を勘案し、農地の活用を促進する。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
認定農業者や認定新規就農者が担い、離農者の農地を集約できるよう、継続して地域内の話し合いを行う。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域の農地の貸し借りは農地中間管理機構の活用を促進し、担い手の経営意向に沿った農地の集積・集約化を図っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
担い手のニーズを踏まえ、地域内の話し合いによる合意形成を基本に、各種補助事業を活用し、農用地の区画整理・用排水路の整備等のため、基盤整備事業を進める。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域内外から新規就農者を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、市や農協と連携し就農相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農業支援サービス事業者になりうる担い手等を活用した農作業委託について、今後検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input checked="" type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①サル、クマ等の被害を防止するため、情報共有を図り、対策に取り組む。
- ④水田における高収益作物等の転換作付を推進する。
- ⑦水路・農道等の管理を地域ぐるみで行い、耕作可能な状態を維持し、農地を保全管理していく。